



＜情報通信技術（ICT）の活用が自分たちの生活や産業にもたらす影響を多角的な視点で捉え、情報通信技術（ICT）の活用の進展に伴う社会の変化や課題について考えさせたい。情報通信技術が進むに伴い、生活や産業の様々な面で変化が生じていること、情報の流出や情報格差などの課題に対応しなければならぬことを通して、様々な視点から物事を見る力を育てることをねらいとしている。

＜情報を活用してこれからの販売の仕事がどのように発展し、国民生活がどのように豊かになっていくのか表現できるようにする。

単元を貫く問い 情報通信技術を利用することで、暮らしや産業はどのように変わったのかな。

単元計画 (全 10時間)

- 第1時 自分たちの知っている情報通信技術にはどんなものがあるかな。
- 第2時 コンビニで使われている情報通信機器や店の工夫について調べよう。
- 第3時 コンビニでは、どのような情報を集めているのか調べよう。
- 第4時 コンビニでは、どのようにして店で売れるものを決めているのだろう。
- 第5時 コンビニでは、商品を選ぶために、どのような情報を生かしているのだろう。
- 第6時 同じ敷地内に違う店がどうしてつながっているのだろう。
- 第7時 二つのグラフを見て、これから暮らしがどのように変化していくのか考えよう。
- 第8時 情報通信技術の活用が進む中で、どのような課題があるだろう。
- 第9時 情報通信技術と上手く暮らすことを伝えるためにどうすればよいだろうか。
- 第10時 他の地域の学校と学んだことを発表しよう。

様々な産業で、情報通信技術を使って新たなサービスを生み出している。それによって、人々の暮らしがより便利で豊かになっているが、これからのわたしたちの暮らしの中での情報通信技術の活用の仕方を考えていくことも大切だ。

単元を貫く問い 販売の仕事は、どのように情報を活用しているのだろう。(コンビニ)

単元計画 (全 9時間)

- 第1時 いろいろな産業で「情報」はどのように活用されてきたのかな。
- 第2時 ほかの産業では、どのように活用されてきたのかな。
- 第3時 コンビニでは、どんな情報をどのように集めているのだろう。
- 第4時 コンビニでは、集めた情報をどのように活用しているのだろう。
- 第5時 コンビニでは、商品を選ぶために、どのような情報を生かしているのだろう。
- 第6時 同じ敷地内に違う店がどうしてつながっているのだろう。
- 第7時 私たちの買い物の仕方どのように変わってきたのだろう。
- 第8時 情報を活用して販売の仕事が発展していくとどんなよさがあるのだろう。
- 第9時 販売の仕事はどのように情報を活用していったのかについて、学んだことを他校と交流しよう。

販売の仕事は、たくさんの情報を活用しながら、効率よく仕事ができるように情報通信機器を活用している。また、情報を活用することで、消費者(国民)の生活もさらに豊かになる。

＜協議の柱：「主体的・対話的で深い学び」

12/3 教材研究会

の実現につながる教材分析

具体的視点 ①課題設定は適切であるか。②資料の提示が適切であるか。③子どもの考えを深められる問いであるか。

【単元を貫く問い】「情報通信技術を利用することで、暮らしや産業はどのように変わったのかな。」

【本時の課題】「情報通信技術の活用が進む中で、どのような課題があるだろう。」

【見方・考え方】「ICTの多様性と共生」を捉え、比較し、「総合して」考える。

研究協議より

- ① 課題に対し、子どもたちからは、SNSのトラブル、個人情報流出、仕事が減るなどの考えが出ると思われる。
 - ・前時の資料やよさとの比較ができる課題である。
 - ・課題に対し、個人差や地域差が生じるのはおもしろい。
- ② 自分の生活と結びつけやすい資料である。
 - ・資料やインタビューから考えられる手立てができていた。
- ③ メリットとデメリットを考えられる手立てが必要。
 - ・自分はどうするかといった自分事として表現させる問いはどうか。
 - ・問い返し(それ、どう思う?詳しく話してみよう。～さんの意見について、みんなどう思う?)はどうか。



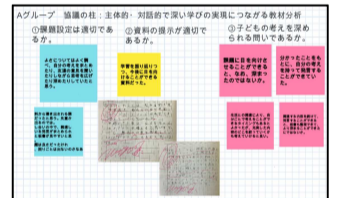
＜教材研究会を受けて＞

情報通信技術が、わたしたちの暮らしをさらに豊かにしてくれるのか着目できる手立てを取り入れた単元構想図にする。

1/24 授業研究会

研究協議より

- ① 子どもたちが本時の課題であるよさについて調べたりして、友だちの意見を聞きながら思考する姿が見られた。また、日頃の生活から見つけられた意見もあって、具体的にこんな場面が役立つのではないかという意見もあった。授業者が単元を通して指導してきたことがよくわかった。
 - ・これからの発展について思考、判断、表現する活動ができていた。自分の生活につながっていく課題であった。
 - ・導入場面ではよく意見が出ていた。課題へつなげるところで、もう少し子どもたちから意見を引き出すことで、もっと自分事となったのではおもしろい。
- ② ロードマップは、学習を振り返りつつ、今後目を向けることができる資料だった。
 - ・資料の導入から、これまでのことについて振り返ることができ、本時の課題であるこれからのことにつなげることができていた。
 - ・年表の資料が、これからどうなっていくのか分かりやすかった。
- ③ 昔は少なかったという意見から、これからどうなるか、根拠をもとに意見が出せればよかったのではおもしろい。
 - ・学び合いの場面では意見がよく出ていた。教師の問い返す場面設定があげばよかった。



グループ協議シートより

【講師】国士舘大学 澤井 陽介 教授

澤井先生の話より (一部)



教材研究会より

子どもの問いがつながり発展する展開案として、①社会的事象と出合う問い②学習問題に迫る問い③単元を通してみんなで解決する問い(学習問題)④解決するために調べるための問い⑤まとめに向かう問い⑥社会につなげる問いで考えてみたい。本時の課題については、「これからも情報を活用して販売の仕事が発展していくとどんなよさや課題があるのだろう。」ではどうだろうか。特に、販売する側、消費者側でのよさ・有効活用・留意点等を仕組み図(関係図)として整理し、相互関係を考えながら学習を提案する。

授業研究会より

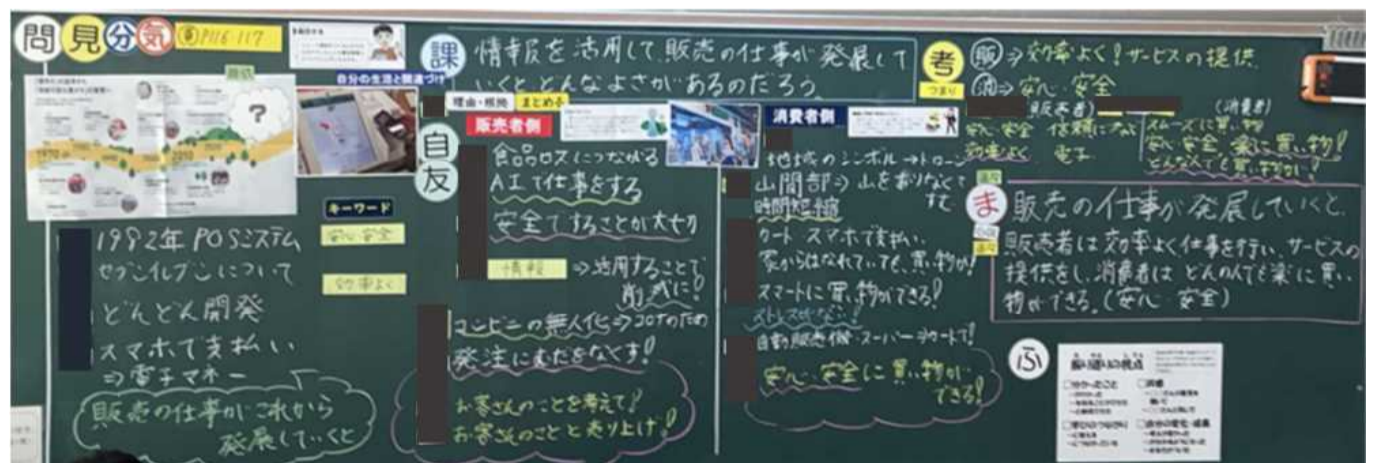
情報を生かすことについて考えていくという単元計画としてのものになっている。情報産業学習は、第3次産業である。小学生にはわかりにくいので、学習指導要領では、いくつか例をあげ、焦点化している。ここで、着目するのは、情報の種類、情報の活用の仕方である。理解するのは、大量の情報や情報通信技術の活用、情報機器を活用すると産業が発達し、国民の生活が豊かになるということである。本時では、課題に対し、販売側のよさと消費者側のよさについて、どのような情報通信技術によってもたらされるよさなのか取り上げる必要がある。

指導のポイント

【導入場面】資料をもとに情報を活用して販売の仕事が発展していくとどんなよさがあるのか個人で考えていく。その際の資料は、写真、ロードマップなど、子どもたちが単元を通して学んできたことを振り返るとともに、情報通信技術が進む自分たちの暮らしがどのように変わっていくのか思考するための手立てとなっていた。また、個々のタブレットで資料を見ることができるように設定しており、展開でのペア学習で活用する姿がみられた。資料提示とともに、ICTの効果的な活用が行われており、導入場面において、より自分事として思考できるよう工夫されている。



【課題探究】個人で考えた情報通信技術の発展のよさについてペアで意見交流をしていく。この交流では、課題に対して自分の考えを明確にするだけでなく、友だちの考えを聞きながらさらに思考していく過程が生じ、思考の深まりに効果があると考えられる。また、全体共有では、出てきた意見を消費者と販売者に整理することで、個々の考えの立場が明確になるとともに、比較・関連付けにつながる工夫がなされていた。さらに、販売者の方からのメッセージを用意し、自分たちの考えた販売者側のよさについて確かめることができるよう工夫されている。



参加者の声

- ・社会科授業の創り方や目標の設定など、基本的なことから学び直すことができてよかった。ICTの活用も含め、今後の授業づくりに活かしたい。
- ・本時のゴールを明確にして深める問いや課題を考えていきたい。また、自分の生活と結びつけるために手立てが必要だと改めて意識しなければいけないと思った。

授業者の声



矢野 智一 教諭

・立ち止まって考えさせることが深い学びにつながると感じた。何を根拠にして考えさせるのか甘かったところがあった。授業づくり講座を行って、社会科の授業の見方・考え方が変わってきた。子どもたちのアンケートを見ると社会科が好きになったとあった。これからは子どもたちと一緒に授業をつくっていくということが自分の永遠のテーマである。